



横町界限

地図F-4

明治中ごろからの製糸業隆盛期に、製糸家や有力な商人たちが造った大壁造り、土蔵造りの家並み。観光案内所などで詳しいマップやパンフレットをもらって、てくてく訪ね歩いてみよう。今はおしゃれなショップやバーとして活躍中の建物も!



蔵のまち 観光交流センター (旧角一製糸所)

建物は明治中期の建築で、繭蔵として使用されていた近代化産業遺産。観光案内や、地場産品の紹介・販売をしているほか、地元の人立ち寄る気軽な交流の場だ。
 ■開館 / 9時~17時 ■休館日 / 12月29日~1月3日
 ■問合せ / 026(248)6867

須坂 蔵のまちマップ



須坂クラシック美術館 (旧牧新七邸)

須坂藩の御用達も勤めた豪商で、幕末から製糸業にも参入した牧家の遺構を保存、利用。日本画家・岡信孝氏から古民芸コレクション約2000点の寄贈を受け、展示している。
 ■開館時間 / 9時~17時 (1月9時30分~16時30分)
 ■休館日 / 木曜(祝日の場合は開館)、年末年始
 ■料金 / 300円(小中学生100円)
 ■問合せ / 026(246)6474

ふれあい館まゆぐら (旧田尻製糸所繭蔵)

大正期の繭蔵を移転・改修した無料の立ち寄り処で、お茶のもてなしにほっと一息。機織りの実演、体験指導にも応じている。
 ■開館時間 / 9時30分~17時(4月~10月) 10時~16時(11月~3月)
 ■休館日 / 12月29日~1月3日 機織り体験は水曜休
 ■料金 / 無料 ■問合せ / 026(248)6225



笠鉾会館

町家の人々の心意気を伝える祭り会館
 毎年7月、大神輿と神樂が市内を練り歩く須坂の祇園祭。そのにぎわいを大型ビジョンで紹介し、現在も祭りの華として巡行する笠鉾11基のほか、祭屋台4台(いずれも市有形民俗文化財)を一堂に展示している。
 ■開館時間 / 9時~17時(1月9時30分~16時30分)
 ■休館日 / 12月29日~1月3日
 ■料金 / 無料(企画展開催時は有料)
 ■問合せ / 026(246)7100



須坂市

すざかし

お問い合わせ 須坂市観光協会

TEL 026-215-2225

URL <http://www.suzaka-kankokyokai.jp/>

迷い込んで時を超える一日旅 レトロな蔵の町並み散策



市内のどこかにいるよ 探してね!

江戸時代は須坂藩・堀家1万石の陣屋町として栄えた須坂。明治から昭和初期にかけては養蚕・製糸業で繁栄をきわめ、ほんの20年ほど前まで、通りの両脇を見渡す限り、無数の蔵が軒を連ねていたという。旧製糸家の豪壮な3階建ての繭蔵、変わらぬ営みを続ける白壁の酒蔵や味噌蔵など、町なかに今も残る蔵の多くは当時の遺産。土蔵を生かした博物館、ギャラリーなどの見どころや味いい処、休み処が点在し、着物姿でゆっくり散策したくなる。



大正浪漫の味わい みそすき丼

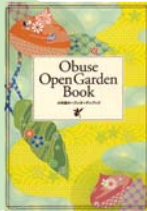
横浜などから生糸を買い付けにきた商人へのもてなしに、須坂の工場主がふるまったのが、全国に誇る「須坂みそ」で味付けしたすき焼き。現代にどんぶりとして甦らせ、市内8店舗で提供中。

味と雰囲気をつのしむ

大正ロマンを感じる洋食処、地元の食材を使ったイタリアンや郷土料理、モダンジャズの流れる喫茶店、こだわりのそば、豆腐、おやき、老舗の造り酒屋にワイナリー、地ビール、地元産の果物のフレッシュジュース…。栗を使ったスイーツのほかにも、小布施にはおいしいものがいっぱい。

オープンガーデン

住む人が心を込めてつくった自宅の庭を公開。町内約100軒のお庭をゆっくり鑑賞し、花を通じた交流を楽しんでみては。
 「小布施オープンガーデンブック」1部100円
 駅舎内「六斎舎」、商工会、美術館、駐車場で販売



カントリーウォーク

農村が集まる町の北部に足をのびして、自然と人の営みに触れる小さな旅を。住民の方々の協力のもと、絵地図図師・高橋美江さんの手による確かな手ごたえの「絵地図」もご用意。

町内各施設に設置

北斎館周辺エリア

歴史的な景観をどめながら整備を行った地域で、高井鴻山記念館や北斎館、老舗の菓子店、土蔵造りの民家などが点在している。路地には栗の木製ブロックを敷き詰めた栗の小径もある。



第2町並 修景事業エリア

中町地区において、北斎館周辺の和風建築の町並み空間と趣を異にする空間として、第2町並修景事業が行われている。この春には、まちづくりの理念に賛同された企業が茅葺の古民家を改修した店舗もオープンするなど、小布施の新たなまちづくりの拠点として注目のエリア。



観音通りエリア

おぶせミュージアム・中島千波館周辺には、個性的なギャラリーが建ち並び、夏には盆花が配られる「お花市」が行われ、屋台や提灯の灯りが通りを彩る。

小布施町

おぶせまち

お問い合わせ 小布施文化観光協会

TEL 026-247-3111

URL <http://www.town.obuse.nagano.jp>

芸術と味の一流を堪能 栗と北斎と花のまち

600年の歴史を持つ栗を使った菓子やおこわが全国に知られる小布施は、交通のクロスポイント「逢瀬」が現在の地名の由来といわれ、江戸時代より北信濃の経済の中心地として栄えた。高井鴻山から豪農・豪商が葛飾北斎、小林茶など多くの文人墨客を招いて文化の薫り高い風土を形づくり、残された多くの作品が今も人々を魅了する。昭和後期から「うるおいのある美しきまち」づくりに取り組み、近年は「花によるおもてなし」が訪れる人を和ませている。



町内周遊シャトルバス 「おぶせロマン号」

町内主要施設を経由するバスで、たっぴりらくらく小布施を満喫!
 ■運行日 / 12月~3月を除く土曜・日曜・祝日 および行楽期の平日
 ■運行時間 / 発着地始発9時50分 最終17時10分着(1日7便)
 ■料金 / 1日周遊券300円
 美術館、小布施駅舎内、六斎舎で販売

